

平成 30 年度 第 1 回 高知市地域福祉計画推進協議会

日時：平成 30 年 5 月 25 日（金）18 時 30 分～20 時 30 分

場所：総合あんしんセンター 3 階 大会議室

開会

（司会）

定刻となりましたので、ただいまから平成 30 年度第 1 回高知市地域福祉計画推進協議会を始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。私は、健康福祉総務課地域包括ケア推進担当管理主幹の川田と申します。議事に入りますまで、進行させていただきますのでよろしく願いいたします。

まず、資料の確認ですが、事前にお送りさせていただいております、A 4 の平成 30 年度第 1 回高知市地域福祉計画推進協議会資料。A 4 の資料①－1 高知市地域福祉活動推進計画（平成 25 年度～平成 30 年度）。高知市地域福祉活動推進計画 A 3 の参考資料①－2 高知市地域福祉活動推進計画の 5 年間の実績。資料②として地域福祉コーディネーターの活動の総括。A 3 の参考資料①市全域の状況。最後に参考資料②として平成 30 年度地域福祉活動推進計画 アンケート調査・意見交換会（案）。以上の 6 点となっております。この事前配付資料の中の参考資料①と②につきましては、配付のみとなっております。本日、詳細の説明は省かせていただきます。

次に、本日お配りしました資料がございますので、ご確認をお願いいたします。A 3 差替資料①－2 の A 3 の資料がホッチキス留めであると思います。それと当日配付資料①、当日配付資料②－1 高知市地域福祉活動推進計画総括、次に当日配付資料②－2 高知市地域福祉活動推進計画総括一覧の 4 点となっております。

お手元に資料がない方はいらっしゃいませんか。皆さんございますでしょうか。それでは、会次第に沿って進めさせていただきます。

開会に当たりまして、まず健康福祉部長、村岡よりご挨拶を申し上げます。

（事務局 健康福祉部長 村岡）

皆さん、こんばんは。委員の皆様におかれましては、本当にお忙しい中、夜間の会にお集まりをいただきましてありがとうございます。

また、日頃から、高知市の地域福祉の取組、また、市政全般にわたりましてご尽力、ご協力いただいておりますことに感謝を申し上げます。

さて、平成 25 年にこの地域福祉活動推進計画を策定して、25 年度から取組を開始し、はや 5 年が経過をいたしました。

31 年度からは第 2 期の計画を策定をするという年になりましたので、今年度の会につきましては、次期の計画を議論していただくということで大変重要な会議となっております。

ちょっと申し遅れましたが、今年度初めての会となりますけれど、玉里先生には、委員の交代もありまして、大変お忙しい中、新たに委員にご就任いただきました。本当にありがとうございます。

これから第2期の計画を策定していくということになりますが、社会を取り巻く環境の中ではご承知のように人口減少、少子高齢化ということが進んでおりますので、国においては地域共生社会であったり、地域力の強化ということが言われて、本当に地域住民の皆さん自身で支えていながら地域を維持をしていく、そういうことが重要だということが言われています。その中で、地域福祉というのは、今日の当日資料の中にもありますが、地域に存在する様々な福祉課題を解決をし、住み慣れた地域で誰もが安心して暮らしをしていくために、住民一人一人が主体的に地域福祉活動に参加をし、住民同士の支え合い・助け合いの仕組みづくりを行っていくということで、住民の皆さんの主体的な取組を後押ししていくという取組でございます。この5年間の中で高知市や高知市社協が地域の取組の黒子となって支援をして、それぞれの地域で取組が進んできたわけですが、それを更にこれからの人口減少の社会の中で本当に力を強めて行かなくてはならないということが求められております。そういった意味で今後の第2期の地域福祉活動推進計画というのは、これからの高知市の将来を決めていく大変重要な計画になろうかと思っておりますので、委員の皆様それぞれの立場での率直なご意見を頂戴しながらより良い計画にしていきたいというふうに考えています。

特に、第2期の地域福祉活動推進計画につきましては、国のほうで社会福祉法の改正がありまして、福祉計画全体の上位計画として位置付けをしていく、高齢者の計画や介護保険事業の計画、また、障害者の計画、そして子ども・子育ての計画がありますけれど、それらの中で共通して取り組むべき事項について上位計画として盛り込んでいくということも言われておりますし、もう一方では、地域の困り事の課題を包括的に受け止めて支援をしていく、そういう体制構築についても議論をしていくということになっておりますので、そういった面でのご議論についても率直なご意見を頂戴できればというふうに考えてます。

今日が30年度第1回目の会ということで、これまでの5年間の取組を主に総括をしながら、今後の取組にどのようにいかしていくのかということをご議論していただくということにしておりますので、率直なご意見頂戴をして、活発な議論が進みますようお願いをいたしまして、開会に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。30年度、本当に1年間どうかよろしく願いをいたします。

(司会)

それでは、本協議会の委員さんのご紹介ですが、お名前については協議会資料の1ページの名簿のほうをご参照ください。すいません、時間の都合もありますので、今回は新しく委員となりました、国立大学法人高知大学地域協働学部教授 玉里恵美子委員より一言自己紹介をお願いいたします。

(玉里委員)

どうも高知大学地域協働学部の玉里でございます。今回から委員ということで声を掛けていただきました。後から入っておりますけれども勉強しながらついていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

(司会)

ありがとうございました。

なお、福田委員、三谷委員、吉永委員の3名については本日欠席のご連絡を頂いております。

次に、高知市の職員を紹介させていただきます。健康福祉部長、村岡晃です。

(事務局 健康福祉部長 村岡)

よろしくお願いいたします。

(司会)

健康推進担当理事、堀川俊一です。

(事務局 健康推進担当理事 堀川)

堀川です。よろしくお願いいたします。

(司会)

福祉事務所長、中村仰です。

(事務局 福祉事務所長 中村)

中村です。よろしくお願いいたします。

(司会)

続きまして、高知市社会福祉協議会の職員を紹介させていただきます。

高知市社会福祉協議会会長、吉岡諄一です。

(事務局 高知市社会福祉協議会会長 吉岡)

よろしくお願いいたします。

(司会)

高知市社会福祉協議会事務局長、舛田郁男です。

(事務局 高知市社会福祉協議会事務局長 舩田)

よろしく申し上げます。

(司会)

そのほか、地域福祉に関係する関係各課、機関の職員が出席をしております。高知市地域福祉計画庁内検討委員会委員名簿については協議会資料2ページのほうをご参照ください。

続きまして、今年度の推進協議会の開催の趣旨について、ご説明をいたします。資料の3ページをごらんください。今回は、高知市地域福祉活動推進計画の次期計画策定に当たり、高知市地域福祉計画推進協議会条例第2条の項目のうち、2項、地域福祉計画に基づく諸施策の進捗状況に関すること。3項、地域福祉計画推進の方策に関すること。4項、地域福祉計画の見直しに関すること。5項、その他地域福祉計画の推進に関するに基づき協議をしていただくために開催するものです。

計画推進のための基本目標については、5ページの図のとおりですのでご参照ください。

平成25年度に策定した本計画は、25年度から30年度までの6カ年計画となっております。今年度は次期計画策定に向けた準備の年となっております。本日は、主に現計画の総括について高知市及び高知市社会福祉協議会よりご報告をさせていただきます。報告の後、質疑応答及び協議の時間を設けておりますので、積極的なご発言をよろしくお願いいたします。

なお、この会につきましては、情報公開の対象となりますので、議事録を作成する関係上、ご発言の際はお名前をおっしゃっていただき、その後にマイクを通してのご発言をお願いいたします。

それでは、前年度末で山村会長が退任され、会長が不在となっておりますので、会長の選任に入りたいと思います。会長は、高知市地域福祉計画推進協議会条例第5条の規定により、委員の互選によるものとされております。どなたかご意見がございましたら、よろしくお願いいたします。

(島元委員)

今回は、任期の途中での会長交代となりますので、事務局での案はないでしょうか。

(事務局 健康福祉総務課長 大北)

はい。ありがとうございます。事務局といたしましては前任の山村会長ですね、学識経験者でございましたので、後任は今回委員として参加をしていただいております学識経験者である高知大学地域協働学部の玉里委員にお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

(異議なし)

(司会)

ありがとうございます。

玉里委員，会長としてご就任をよろしくお願ひいたします。前の会長席のほうへの移動をお願ひいたします。

それでは，ここからは玉里会長に進行をお願ひし，議事に入りたいと思います。玉里会長，よろしくお願ひいたします。

(玉里会長)

新入生の高知大学地域協働学部の玉里でございます。よろしくお願ひいたします。

先ほども部長のご挨拶にもございましたけれども，地域共生社会の推進ということで，地域福祉計画は上位計画であるという新たな視点が出てきております。そのような中でこれまでよりも更にこの地域福祉計画，重要になってくると思ひますが，そのような中でこの推進協議会の委員長を拝命いたしまして大変身の引き締まる思いでございます。この推進協議会の議論が高知市民の地域福祉の向上に寄与できますればと思ひておりますので，皆様のご協力，何とぞよろしくお願ひいたします。

それでは，座らせていただきます。それでは，早速ですが平成30年度第1回高知市地域福祉計画推進協議会，始めていきたいと思ひます。

まずは，皆さんお手元に資料がたくさんございますけれども，事務局のほうからご報告を頂くことになっております。今日のご報告は，1つ目が次期計画策定体制及び策定スケジュールについて，2つ目が地域福祉コーディネーターの活動の総括，3つ目が高知市地域福祉計画，平成25年度から30年度の総括というふうになっております。それでは一括されて事務局のほうからの報告になりますので，どうぞよろしくお願ひいたします。その後，質疑応答の時間をとってまいりますので，委員の皆様方におかれましてはご発言等よろしくお願ひ申し上げます。

(事務局 健康福祉総務課 川田)

それでは，健康福祉総務課の川田です。私のほうから策定体制とスケジュールのほうについてのご報告をさせていただきます。座って失礼いたします。

それでは，皆さん。お手元に当日配付資料①のほうをご用意をお願ひいたします。A4の1枚物になっております。先ほどの村岡部長の挨拶のほうと少し重なる部分もありますが，今年度第2期の地域福祉活動推進計画。

(玉里会長)

すいません。ちょっと委員さんのお手元にあるかどうかちょっとどなたか回ってあげて

いただければと思います。分からない方もいらっしゃいます。

(事務局 健康福祉総務課 川田)

すいません。ありがとうございます。すいません。

(玉里会長)

はい。お願いします。

(事務局 健康福祉総務課 川田)

はい。それでは、今年度第2期の高知市地域福祉活動推進計画の策定に取り掛かるに当たり、1期の計画からの再確認と次期計画の策定体制、スケジュールの確認を私のほうはさせていただきたいと思います。

改めて、地域福祉とはということですが、第1期の計画のほうにも書き込んでおりますが、住民が地域社会において自立した生活を営むことを可能にするために必要な福祉と保健・医療などのサービス整備とサービスの総合化、福祉の増進・予防活動、福祉環境の整備、住民参加の福祉活動の支援を行い、これらの活動を通して福祉コミュニティの形成を目指す福祉活動の総体ということとされております。

部長の挨拶にもありましたが、この様々な福祉課題を解決するために住民同士の支え合い・助け合いの仕組みづくりを行っていくことが必要ということで、すいません。裏面になりますけれども、高知市のほうでは平成25年3月に第1期高知市地域福祉活動推進計画を策定しております。計画期間は平成25年から30年度の6年間としており、住民の主体的な支え合いのネットワークづくりを基軸として、住民主体の福祉活動を支える多様な関係機関・団体、行政や社協もこれに含まれますが、両者の連携の下に「誰もが安心して暮らせる支え合いのあるまちづくり」を目指すことを基本に策定しております。

また、この計画は社会福祉法第107条に基づく市町村計画である「高知市地域福祉計画」と市社協の計画である「高知市社会福祉協議会 地域福祉活動計画」を一体的に市民の互助・共助の活動を支援・推進する計画として策定をしました。

今年度、議論していただく第2期の計画の策定のポイントですが、改正社会福祉法の中で、福祉分野の「上位計画」としての位置付けや、計画の記載事項として2つ追加をされました。第2期の計画については、この改正を踏まえ、意見交換会・アンケート調査等を実施しながら、第1期計画と同様に市社協の「地域福祉活動計画」と一体的に策定していきたいと考えております。

その策定の体制についてですが、すいません。今度、協議会の資料の6ページの方をお開きをいただきたいと思います。左側、ホッチキス2カ所留めの第1回協議会の資料になります。6ページのほうが策定の体制となっております。下から上へ上がっていきますが、意見交換会、地域福祉に関するアンケート調査をし、現状と課題の把握をし、分析をしな

がら、市社協と高知市の合同事務局のほうで具体的方策など検討をし、また、高知市の市内検討の委員会のほうでもご協議をいただき、案を地域福祉計画推進協議会のほうで審議・承認を頂くという形を取っております。

右側、7ページのほうが、今年度の策定スケジュールとなっております。5月のところに本日の協議会が記載がありますが、本日は現計画の総括。その後、アンケート、意見交換会を経て、8月にアンケート調査の結果報告、意見交換会報告と、高知市の現状・課題と方向性、新計画概要の審議をしていただき、9月、11月の2回で新計画素案の審議を考えております。そして、パブリックコメントを経て、2月に新計画原案の承認を頂き、3月に市長報告というような予定を案として考えております。

委員の皆様には回数が多くなり、ボリュームも多いことにはなりますが、ご協力のほどよろしくお願いいたしますと思います。

よろしくお願いいたします。

(事務局 高知市社会福祉協議会 馬場)

いつもお世話になっております。高知市社会福祉協議会地域協働課の馬場と申します。

私のほうからは、「地域福祉コーディネーターの活動の総括」と題しまして、この5年間の活動の総括のほうをご報告をさせていただきます。

資料のほうが、右上に資料②と書いたカラー刷りの資料になりますので、皆様お手元にありますでしょうか。そちらのほうを使いましてご報告のほうをさせていただきますが、私どもの後ろ側、事務局側の後ろ側のスクリーンのほうにも同じものを映し出していきますので、どちらか見やすいほうを見ていただきながら聞いていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、座って失礼いたします。

現計画の主な柱に沿いました詳細な活動報告等につきましては、後ほど高知市のほうから説明があると思いますので、私のほうからは、活動を通じて見えてきました地域の変化ってということであったりというところを、成果、課題も含めまして報告のほうをさせていただきますと思います。

それでは、次のスライドに移りまして、本日の報告の内容になりますが、資料のとおり5つの視点でまとめさせていただきます。特に2番と3番と4番に関しましては、地域福祉コーディネーターの実際に関わった具体的な事例というものも踏まえまして報告のほうをさせていただきますと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それではまず、1つ目としまして、「地域福祉活動推進計画に関連する取り組みの拡がり」のほうをご報告をさせていただきます。まずは、この5年間の取組の全体像としまして、高知市全域の地図のほうを使用しまして報告のほうをさせていただきますと思います。資料のほうにもありますように、市内全域にて地域福祉コーディネーターによる啓発活動でありましたり、福祉教育の展開、そして、集いの場づくりでありましたり、話合いの場づくり等の支援を実施してきておりまして、具体的な数値としましては、資料に記載してい

るような数値というところが一定の成果として上がってきているというふうに見ていただければと思います。

それでは、続いて2番目、「地域福祉人材の発掘・育成」という部分になります。ここからは、具体的な活動の中身なんかも事例を交えて報告のほうをさせていただきます。先ほど同様に、資料のほうにも高知市全域の地図を使用しまして、その取組の全体的な広がりの方を整理をさせていただいております。

まずは、「気くばりさん」というボランティアさんですけども、地図上の青色の色が濃い部分がいわゆる登録者の多い地域というふうに見ていただければと思います。現在、26地区520名の気くばりさんが登録をさせていただいておりますが、具体的な活動例として資料のほうに2例載せさせていただいておりますが、脳卒中当事者である気くばりさんがお世話役の方が高齢によって、百歳体操会場の継続というものが難しくなったケースにつきまして支援をして、体操会場がずっと継続をしているというところでありましたり、独居高齢者。おひとり暮らしの高齢者のごみ捨てという困り事に対しまして、そういった生活支援のボランティアとして活動をされている気くばりさんというボランティアさんも出てきているというような形になっております。

また、平成26年度より取組が始まりました福祉委員制度ですけども、福祉委員さんは現在、12地区156名となっております。それぞれの地域の実情に沿った活動を展開していただきながら、民生委員との協働であったり、サロンや百歳体操などの担い手としましても活動のほうをされているというような状況になっております。

これら地域福祉人材の発掘・育成に向けた地域福祉コーディネーターによる支援としましては、黄色の枠の中になりますけれども、ごみ捨てボランティア等地域課題と、福祉人材というところのマッチングでありましたり、子ども食堂を始めとする地域福祉活動への参画というものをコーディネートさせていただいているという現状があります。

それでは、続いて、少し地域福祉人材の発掘・育成の具体的な特徴的な取組というものを事例として報告のほうをさせていただきたいと思っております。時間の流れとしましては、左から右へ時間が流れていくというふうに見ていただければと思います。

まず、この事例に関しましては、団塊世代の方々の組織化というところから、ボランティアグループを立ち上げていっている事例になります。

まず、きっかけとなったのが一番左端になりますが、「退職したら暇過ぎて死にそうだ」というような団塊世代の女性の方のつぶやきというところを地域福祉コーディネーターが拾いまして、関わりを開始したというのがまず始まりになります。実際、そういったお声を頂いた方には、まずは笑顔マイレージっていうようなボランティアの制度を活用していただきまして、そういった活動をしていただく支援のほうをする中で、課題を普遍化をしまして、同じく団塊世代を中心に住民の組織化のほうを進めまして、まずは自分たちが楽しめるっていうようなそういった活動の場を作ることで、講座や農園プロジェクト等の展開によってメンバー同士の交流を図りながら、そして、もともと先行してその地区の中に

ありました認知症カフェのほうで、ボランティアとして手伝いをされるっていうようなそういう事例になってきております。

実際に、このボランティアグループのメンバーとして関わってくれている方々の声っていうものをそこにピンクの枠で4つほど載せさせていただいておりますが、少し紹介をしますと、「いきなりボランティアって言われても負担感しか感じない」というところですけども、ただ、仲間がいればずっと続けられるんじゃないかということであったり。仲間がいることで楽しめる。そして、仲間がいることでこんなこともできるんじゃないかっていうような、その中でそういうふうに見えるようになってきたというようなことも聞かれています。そして、自分たちが楽しむっていうことだけではなくて、自分たちが年老いたときのために支え合える仕組みづくりを今のうちから進めておこうというところで、生活支援ボランティアの担い手として、そういった活動の展開に向けて今準備のほうを進めているところになっております。

このように、今後、第2期の計画を見据える中で、福祉人材の更なる発掘というところはもちろんなんですけれども、実際発掘をした、先ほどお伝えをしました26地区520名の「気くぱりさん」であったりっていうところの、発掘した人材っていうものの育成っていうところ。活動につなげていくっていうところにも力点を置きまして、取組を今後進めていかなければいけないと考えているところです。

続いて、「集いの場づくり」のほうに移っていきたいと思います。まず、集いの場づくりに対する地域福祉コーディネーターの関わりとしましては、黄色の枠の中になりますけれども、平成25年度から平成30年度までの間で、新たに立ち上げられた地域の集いの場というものが93カ所ほどありまして、そのうち、64カ所にて意見交換の場を作ったり、あとは、ボランティアさんを確保をしたり、助成金の活用支援を行うっていうような、その場の立ち上げのための支援のほうを実施をさせていただいております。

また、実際、立ち上げの支援だけをやるっていうことではなくて、そういった集いの場を活用していくという視点で、把握している集いの場の情報を適宜、個別支援に当たっているケアマネジャーさんであったりというところの関係機関と情報共有のほうはさせていただきまして、課題に応じたマッチング支援というものも実施を少しずつしてきているというような形になっております。

資料②で、先ほどの福祉人材の発掘・育成と同様に、高知市全域の地図を使用しまして、その取組の広がりの方を整理をさせていただいております。地図上の青色の色の濃い薄いにつきましては、子育てサロンとか、障がい・高齢を含むサロンであったり、認知症カフェというもの、全てのそういった集いの場を合算しまして、その地域に集いの場が幾つあるか。その数の多い少ないによって色の濃淡を付けているというような形になっております。

色の濃淡を変えているところの下の部分が、集いの場それぞれの種別ごとに黄色、青、赤、緑というような形で、その種別ごとに地域福祉コーディネーターが配置となった平成

25年4月の段階から平成30年の3月までの約5年間の間にそれぞれの種類がどの程度数が増加をしたかというものをまとめておりますので、また参考に見ていただければと思います。

さらに、それぞれの種別ごとに高知市全域のエリアのカバー率というのを見てみますと、今、資料のほうにもありますが、子育てサロンは黄色のピン。そして、高齢・障がい・全年齢のサロンっていうものにつきましては青色。そして、認知症カフェには赤。こども食堂、こどもの居場所は緑というような形で、全域のエリアでもこういった形で広がりを見せてきております。こういった少しこういう整理もコーディネーターとしてしながら、今後の取組の展開というところにも活用していきたいと思っております。

続いてのスライドですね。集いの場づくりの充実というところで、少し事例のほうを紹介をさせていただきたいと思っております。こちらのほうは、子育てサロンの立ち上げをコーディネーターのほうで支援をしたという事例になっております。

まず、この事例のきっかけになっているのが、子育て世代のために何かをしたいというふうなずっと考えておられた主任児童委員の方の思いっていうところと、病院の一角を地域開放したいと考えている病院の思いというののマッチングをしたことというのが、そもそもの始まりになります。

その後の地域福祉コーディネーターの関わりとしましては、話合いの場づくりというものを支援しまして、立ち上げ費用の確保。それから、担い手の確保というところを支援することで、実際の子育てサロンの開設っていうところに至っております。そして、子育てサロンという活動の場ができたことで、それぞれの思いが形になりまして少しずつ地域に変化が生まれてきています。右端、この活動のほうに関わっておられる地域住民の方の言葉を借りますと、きっかけとなった主任児童委員の方は、「長年の夢がかなった」というところで、「これからは子育てママの助けになりたい」というところ。それから、取組に関わっていただいている病院の小児科の医師っていうところからは、「情報発信だけではなくて、相談機能を持った場という所へとどんどん発展をさせていきたい」といった、少しずつ場を通じた意識の変化というものも見えてきております。

そして、また親戚が育児ノイローゼで自ら命を絶ってしまったっていうようなつらい経験を経て、同じ悩みを抱えるお母さんを救ってあげたいという思いを持っていた女性というところも、このサロンができたことで、その思いを発揮することができまして、今は友人、知人の子育て世代に対しまして、精力的に活動をPRしながら活動のつなぎ役というものを担ってきております。このように、子育てサロンっていうところで少し切り取って見てみますと、市内約20カ所ほどの会場にて、このサロンのほうが実施をされているんですけども、会場によってはフロアが一杯一杯になるほど参加者があふれている会場もありますし、必ずしも会場から近いエリアからのみの参加という形ではなくて、遠い所からはるばる足を運んでいるお母さんという方々もいらっちゃって、そこに現代社会特有の一種の孤立っていうものも見え隠れしているんじゃないかなというところで感じておる次第

となっております。

続いて、「話し合いの場づくり」につきましてご報告のほうをさせていただきます。まず、話し合いの場づくりに対する地域福祉コーディネーターによる支援としまして、企画、提案、会の運営等の支援のほうをまずさせていただいております。また、意見の集約であったり、それから整理をすること、そして具体的な活動への活動の開始っていうものを支援をすると、そういった活動の支援というところを関係機関との連携の中で、専門職と地域住民とともに地域課題について話し合うことのできる場づくりとともに支援のほうをさせていただいております。

その結果、計画の指標にもなっております地区社協単位での支え合い会議の開催というところで、小高坂地区、秦地区にて取組を展開しまして、その後の発展例としまして空き家を活用したサロンであったり、子供の見守りパトロールといったような取組のほう新たに開始となっております。そして、平成 27 年度の間評価以降、おおむね町内会単位程度の小地域エリアにおける話し合いの場づくりというものに少し力を入れまして取組のほうを展開してきました。その発展例としまして、資料にもありますとおり、回覧板を活用して住民の困り事というものを把握をできる仕組みづくりというところを進めている町内会というのも出てきております。さらに、話し合いの場づくりっていうものを進めていく手法としまして、支え合いマップづくりというものを積極的に活用しまして、特に平成 29 年度、昨年以降は高知市地域防災推進課のほうと連携をしまして、災害時の避難行動、要支援者対策の推進の中でこの支え合いマップづくりというものを活用したという事例のほうも出てきております。そして、今後も話し合いの場づくりを進めていくべく平成 30 年度の重点地域としまして、現状分かっているところで資料の緑の部分でお示しのほうをさせていただいております。

この話し合いの場づくりにつきまして、少し特徴的な事例のほうを次のスライドでご報告のほうをさせていただきたいと思っております。こちらの事例のほうが地区社協単位の地域支え合い会議の事例となっております。きっかけは、地域のためになる活動に取り組みたいというような地区社協の会長さんのまず思いがあったというところで、そこから地域支え合い会議の開催というところを通じまして、住民計画を策定しまして、その後その計画を基に具体的な地域福祉活動として、空き家を活用したサロンであったり、ひとり暮らし高齢者の見守り、それから子供の見守りパトロールというようなそういった地域福祉活動を展開してきております。その結果、地域に生まれてきた変化としまして、一番右端の部分になります。支え合い会議への参加というところをきっかけに地域へ関心を持つようになったと話をしてくださったお宮の総代の方が、実際にその後、近所をさまよっていた障害をお持ちの方に声を掛けて、社協のほうへつなぎの役割を果たしてくださったり、取組の主催者側であった地区社協の会長さんは、行政に頼るだけではなくて地域全体で支え合っていきたいというような形で、参加することで意識が変わってきたというような声も聞かれています。また、地区全体から始まった取組なんですけれども、3年目からは町内会

ごとの小地域へと広がりを見せておりまして、子育て世代の方々が地域活動を知り、そして担い手としての一歩を踏み出してくれているというような事例も見られています。このように話合いの場というのは、一種の福祉教育的な側面も有しておりまして、自分たちの地域の課題をまずは知るといことで、そこで知った上で知ることによってそこに優しさが生まれたり、それから課題を解決しようというような住民さんの行動力っていうところにもつながっていくと。そういったことがこの取組を通して見えてきたんじゃないかなというふうに思っております。

最後に、「地域福祉コーディネーターの活動を通して」というところでご報告をさせていただきますが、活動の中で見えてきました成果と課題というところにつきまして、ご報告をさせていただきます。成果としては大きく2つに整理のほうをさせていただいております。

まず、1つ目としましては、おおむね町内会単位程度をエリアとする小地域における話合いの場づくりというところによりまして、そういった小さい単位で話合いをすることによって、おのずと生活に即した課題が出てくると。例えば、どここのひとり暮らしのおばあちゃんのごみ捨てに困っているよとかそういうことですね。そういった課題が出てきたりだとか、あとはそういった課題に対して解決策を考えるというところに関しまして、小地域であればまとまりがいい分ネットワーク軽く動けるといところで、より具体的な活動につながりやすいというようなことも見えてきております。また、この小地域というエリア設定につきましては、この第一期の地域福祉活動推進計画の策定に当たり実施をされました住民アンケートにおいても、住民が最もまとまりやすい範囲としまして、おおむね町内会単位程度の小地域というふうに答えているのが一番多いというようなデータも出ておりまして、今後の地域福祉活動の展開におきましても、小地域単位というのは一つのキーワードになるのではないかとこのように考えているところです。さらに、話合いの場づくりにおきましては、先ほど少し高知市地域防災推進課との連携というところもご紹介をさせていただきましたけれども、防災というテーマが特に効果的であるというところも見えてきておりまして、より自分事として捉えやすく課題意識も高い防災というところをテーマにしまして、そこを入口にして支え合い・助け合いの仕組みづくりに向けたより具体的な話合いというものに広げていくと。そういった視点も必要ではないかというふうに考えております。

続いて、2つ目の成果としましては、子ども食堂のボランティアっていうところに代表されるように、目的や役割が明確であり、なおかつこれならできるというようなテーマ型の活動であったり、また日々のちょっとした困り事への対応ですね。ごみを捨てていただくとか、そういう対応と地域の課題とか協力してほしい内容なんかを具体的にボランティアさんに伝え、協力を呼び掛けていくと。そういったことが福祉人材の発掘とか育成に関しましては必要だということも事例を通して見えてきております。さらに、団塊世代の組織化の事例にもありましたように、支え合いであったり助け合いということだけではなく

て、楽しいとか楽しめるといったような行動の動機付けとしては普遍的なテーマというものを活動への入口とすることで、これまで地域福祉の分野とは関わりのなかった方々というのを巻き込む可能性を秘めているというふうに、そういった部分も見えてきたんではないかなというふうに思っています。

そして、最後に課題としまして、住民福祉活動と専門職の連携、協働というところにつきましては、まだまだ課題が多く残っているかなというふうには感じております。意外と住民座談会、話し合いの場づくり等もそうなんですけれども、地域の方々と話をすると結構住民の方はすごく地域のことを見ている、地域のことを知っているんですね。その中で、ただつなぐ先を知らない。つなぐ先を知らなければ不安でその方が心配でもう関われないというようなことはよく耳にします。その中で、やはり住民と専門職が顔の見える関係を日頃から作りながら、相談先を知っているというところがある種地域の孤立を生まない一助というところにも効果があるのではないかなというふうに思っておりますので、そういったことを念頭に置きまして今後も活動をしていければと思っております。

以上で、地域福祉コーディネーターの活動の総括につきましては、報告を終わりとさせていただきます。ありがとうございました。

(事務局 健康福祉総務課 朝比奈)

それでは、すみません。引き続きまして、高知市地域福祉計画の全体の総括のほうに話を移していきたいと思っております。先ほど、地域福祉コーディネーターの個別の活動の話が出てきましたので、では計画全体として当初どんなふうな計画を立てて、どういう取組が全体的に行われて、それをどう総括していくのかという部分について、高知市のほうからまとめて報告をさせていただきます。

その前にすみません。資料の訂正がありましたので、その部分の訂正を先にさせていただきますと思います。配付資料の中で、すみません、まず資料①-1、A4横の分になりますが、この部分、少しページを開いていただきます。ページが6ページを開いていただけますでしょうか。6ページの①相談支援活動の中で「健康福祉部・子ども未来部」となっておりますが、子どもの「子」が、すみません、平仮名の「こ」なんですけれども、子どもの「子」になっておりますので、訂正をお願いいたします。

続きまして、10ページを開いていただきまして、24年度又は平成25年度の欄の部分で、高知市社会福祉協議会地域協働課担当の、相談のうち市民からの相談件数がすみません。52.0になってますが、点ですので訂正をお願いいたします。

続きまして、20ページを開いていただきまして、4-2【ブロック圏域での専門機関による連携強化】の部分で、下から2つ目、学校支援地域本部推進協議会となっておりますが、委員会の間違いですので、すみません。訂正をお願いいたします。

この資料最後になります。27ページ。取組の成果の欄につきまして、すみません、4名体制から12名となっておりますが、12名というのが市からの助成の数でして、補助金

の数が12名ですが、15名の体制となっておりますので、12から15への訂正をお願いいたします。

資料①-2につきましては、差替え資料のほうをご参照いただきまして、資料②地域福祉コーディネーターの活動の部分、すみません、訂正を一つ抜かしておりましたので、補足させていただきます。1枚めくっていただきまして、「地域福祉人材の発掘・育成」の部分、皆さんに事前資料としてお配りさせていただいたときに、福祉委員さん、真ん中の辺りに気くばりさんと福祉委員さんの地区数があるんですけども、福祉委員さんの地区数13地区ではなく12地区でしたので、すみません、馬場さんの資料の「地域福祉人材の発掘・育成」という1枚めくっていただいて、真ん中のほう下のほうですが、福祉委員13地区156名は12地区だったということで、すみません、訂正をお願いいたします。

それから、すみません。この福祉委員さんの数が参考資料①のほうでも同じように出ておりましたので、A3資料開いていただいて、裏面に⑫福祉委員とありますが、平成29年のところが13地区になっておりますので、そちらを12地区に訂正をお願いしたいです。

すみません。訂正が多かったもので、お時間取らせていただいて申し訳なかったです。それでは、私のほうは事前に配らせていただいた資料がたくさんありましたので、それらを全て一緒にさせていただきます。当日配付資料の②-1ツーアップでパワーポイントなども作らせていただいている資料で説明をさせていただければと思います。お手元の資料の準備のほうと前のほうにもカラーでパワーポイントで出す部分もありますので、見やすいほうで見ていただければと思います。

それでは、すみません。高知市のほうから計画全体の報告をさせていただきたいと思えます。

はい、当日配付資料②-1の部分、今日机の上に配らせていただいたものになります。

まず、高知市のほうから各基本目標における取組と成果というところで、馬場さんのほうからコーディネーターの具体的な取組がありますので、全体的なところをまとめている部分を報告させていただきます。

まず1番、「おたがいさまの住民意識づくり」という部分で、1-1きっかけづくりと1-2福祉人材の育成についての部分です。

5年前に計画を策定したとき、高知市の状況というのがどういったかというのを少し振り返りたいと思ひまして、スライドに入れさせてもらっております。

24年度のアンケート調査からは、助け合いの必要性について必要だと思う、又はあったほうが良いというところが、9割に近い方が助け合いの必要性について認識されておりました。ですが、その矢印の下にありますように、実際に住んでいる地域で、地区で、住民同士がお互いに助け合っていると思ひますかという質問に対しては、大変そう思う、そう思うについては半分以下になっておひまして、45%だったというのが平成24年度の結果です。地域での活動への参加についても、参加している、又は現在は参加していないが以前に参加したことがあるというパーセンテージについては、もっと低い数字が5年前には出

ておりました。それらのことを踏まえまして、地域での助け合いの必要性は感じてはいるけれども、積極的に活動を行っているとは言い難い状況が高知市にはあるということが分かっておりました。また、活動に参加していない理由を聞きますと、仕事や家事が忙しく時間がないというお答えが4割近くあったんですけれども、活動に関する情報を知らない、身近に活動グループや仲間がいない、知らないという割合も3割近くの方がそういったご回答を頂いております。活動したいと思ってる人が自ら選んで活動に参加できるような仕組みづくりが必要ということがありました。

また、住民同士の支え合い、助け合いを阻害する要因というところで、そちらにあるように意識の壁として感じる部分が出ておまして、困ったときに助けてと言えない状況の継続からニーズが眠っていき、問題の深刻化、重度化、複雑化、長期化が起こっているのではないかとこのところが上げられており、住民同士がお互い様の意識を持ち、困ったときには助けてと言えるような関係づくりが重要だということをもって、基本目標1を組み立てて来た経過があります。計画策定時の取組の方向性としまして、中間評価後の取組の方向性を含めて図のほうに落としておりますが、啓発活動やきっかけづくり、情報提供、活動支援といったような方向性を持ちながら方策1-1と1-2を組み立ててきておまして、中間評価のときにはそこに書いてありますように、地域住民に分かりやすい情報や一人でも多くの市民に情報が行き渡るような情報発信というのが課題として上げられてました。

また、何かやりたいと思っている人が参加しやすい機会の拡大、福祉委員、気くばりさん、こうち笑顔マイレージのように、新たな制度を活用した、地域福祉活動の担い手の更なる拡大というのが課題に出ておまして、取り組む方向性が右手のほうに書かれております。

これらを受けまして、啓発活動、きっかけづくり、情報提供、活動支援、活動継続の仕組みづくりというのがその図の中に書いておりますが、啓発活動につきましては下線を引いているもの、パワーポイント、前の図のほうでは赤色を付けらせてもらっているんですけれども、27年度以降、啓発プログラムや啓発グッズの開発を①に書いてますがしてきませんでした。あと、小地域における啓発活動も充実させてきました。きっかけづくり、情報提供では②番に書かれているように、各地域で取り組まれている地域福祉活動の情報発信方法を充実させてきております。④に書いておりますが、保育園・小学校対象のほおっちょけん学習、思いやりの気持ちの啓発や学校・団体・企業等対象のふれあい体験学習、障害福祉の啓発分野についてもかなりの活動をされてきております。

それから、活動支援、活動継続の仕組みづくりにつきましては、先ほど、コーディネーター活動のところにもありましたように、テーマ型であったり、地域のニーズに応じた主体的に活動する住民の育成を進めてきております。②にあります既存のボランティア活動の活性化については、ボランティア活動連絡会の開催、福祉委員の交流会の開催も中間評価の後に行ってきたしております。

それらの成果としまして出てきておりますのが、次のスライドになりますが、①啓発活動については幅広い年代、及び対象への地域福祉に関する情報発信、②の小地域対象とした地域福祉に関する啓発機会が増加してきております。きっかけづくり、情報提供につきましては福祉教育の機会が増えてきておりますし、そこから新たな福祉人材も発掘できてきております。活動支援、活動継続の仕組みづくりとしましては、先ほどもありましたテーマ型のボランティア活動の部分、それからそれらを通した住民の意識の変化というのも見えてきました。

ただ、課題としまして3つ挙げさせてもらっておりますが、啓発プログラム、福祉教育というのは、まだまだ改善の余地がありますので、更なる検討をしていく必要があります。また、幅広い年代層の地域福祉活動推進という部分で、どうしても若い世代の年代層をどう巻き込んでいくのかといったところにつきましては、まだまだ課題が残っておりますので、そういった福祉人材の育成。3番目、活動したい人たちの登録数っていうのは、どんどん増えてきているんですけども、その活動したい人が増えたところの次のその方たちが活動できる場へのつなぎ、そういうのがまだ十分ではないのではないのかという意見も出ておまして、ボランティアセンター機能の強化の部分については、まだ課題が残っているということで、現在の総括の部分に入れさせてもらっております。

参考としまして基本目標1の指標につきましては、一覧をそこに付けておりますが、下の2つにつきましては、30年度のアンケートを6月に予定しておりますので、まだ数値が出てきておりませんが、上の各養成講座終了後、実際に地域で活動を行う人が増える部分につきましては、人数が提示できておりますので書いております。本来は平成30年度の数値を出さなければいけないのですが、すみません、現時点では29年度末の時点の数。それから地域リーダー養成講座受講回数につきましては、28年、29年連続の受講になっておりますので、28年度末の時点の数を書かせていただいておりますが、24年度からみても平成29年度、28年度の養成講座終了者数というのは、かなり増えてきている経過があります。

続きまして、小地域での支え合い活動の推進とニーズの早期発見という基本目標2と地域での支え合いの仕組みの構築、基本目標3につきましては併せて報告させていただきます。

計画策定時の高知市の状況としましては、今住んでいる地域に住み続けたいか、住んでいる地区の住民の助け合いの状況はどうかという、2つの設問を掛け合わせて見ますと、住んでいる地区の住民同士の助け合いがあると思うと答えた人が、今住んでいる地域に住み続けたいと答えた人のほうが、割合が高かったということで、今住んでいる地域に住み続けたいと思うためには、助け合いの状況というのが関係してきているようなアンケート結果がありました。また、助け合いやまとまりの範囲は先ほど報告がありましたように、小地域での活動が求められている。市民が取り組んでいくことに対する回答については住民同士の支え合いの意識を向上させることということが、8割近い方がそういったことを必要だと書いておりました。また、住民同士が話し合いの機会を作ることということも、5

割には達しておりませんが5割に近い方が回答していただいております。

次のスライドにあります。住民主体の助け合い、支え合いの活動は地区の実情に応じて各地域で、交流活動、見守り活動というのが平成24年度の、25年度も行われておりました。その当時、小地域福祉活動の市内、各地への広がり、発展という部分で住民同士のつながりが構築されたり、小地域福祉活動の中で、住民さん自身が支援の必要な人を早期発見してくるという事例等もあつたと思います。小地域福祉活動から住民同士のつながりができて支援の人が早期に発見されると、問題が重度化する前に支援につなげていくことができるということが、この当時分かってきましたので、それらの目標、基本目標2の部分を作ってきた経過があります。

また、次のスライドになりますが、住民が抱える課題の複雑多様化というところで、町内会、自治会程度の小地域福祉活動だけでは解決できないことも多くありますということが、この当時も言われておりました。要援護者への支援方法や住んでいる地域の問題を一人で抱える。一つの機関で抱えるのではなく、いろいろな人が知恵と力を出し合い、協力しながらより良い生活を送ることができるようにしていくことが必要ということで、基本目標につきましても、小地域での見守りや声掛けといった支え合い活動の活発な実施、早期支援につながるための地域のニーズの早期発見という計画策定時の取組の方向性が書かれております。

中間評価では、課題として、住民主体の地域福祉活動の拡大ということで、まだ市内全域をカバーはできていないということが言われておりましたし、支え合いマップづくりというのを活動の中で行っていました。実践できる地域福祉コーディネーター、それから市の職員も少ないという現状がありました。また、困ったときに助けてと言える地域住民同士のつながりづくりというところですが、なかなかやはり意識の変化というのは短期間ではできないものでして、地域での支え合いがなかなか進んでいない現状があるというのが中間評価でした。小地域の見守り体制の部分につきましても、民生委員、児童委員さんとの更なる連携強化等もこの当時言われておりました。生活困窮者支援の部分についても中間評価で出てきておりました。中間評価後の取組方針としまして、小地域に展開される地域福祉活動を拡大していくことというのが挙げられまして、活動してきました。

続きまして、3番目の地域での支え合いの仕組みづくりや、地区社協が主催する地域支え合い会議の開催、各地区の実情に合った住民計画の策定の推進という部分につきましても、基本目標3-1、3-2の方策で地域の各種団体・組織等の連携強化、3-2の地区社協（小地域の福祉活動を中地域で取りまとめる組織）への支援と連携というのを方策として挙げてきておりました。中間評価では、地区社連主催の情報交換会の参加者がまだ少ない状況でしたので、参加者の拡大。地域の負担軽減というところ、地域の支え合いを進めていく会議だとか組織というのが地域においては縦割りで市のほうからもたくさんお話が行ってた時期でしたので、そういった地域の方々の負担軽減というのを必要ではないかというご意見。それから、地域支え合い会議の拡大というのを課題として挙げら

れておりましたので、方向性として2点、そちらへ書いてあるようなものが挙がって
ました。

次のスライドになりますが、小地域での支え合い活動の活発な実施は、住民同士のつな
がりに続きますし、地域ニーズの早期に発見につながるということで、市社協の取組、市
の取組というのが、それぞれ行われてきた経過があります。このことにつきましては地域
ニーズへの早期支援という部分については必要時、矢印で書いてありますが、専門相談窓
口へつないでいくことにより、専門職と地域住民が共に支援を行うことができる体制づく
りというのが必要になってくるということもありました。

次のスライドのほうでも、市社協の取組と市の取組というのを掲げてもらってますが、
これはこの中間評価の後に、かなり協働の取組例というのが出てきておりますので、それ
らの部分を、少し協働の部分を出させてもらっております。小地域福祉活動の支援につ
きましても市、市社協、協働の取組として、支え合いマップづくりがありましたし、災害時
の要援護者支援の取組というところにつきましても支え合いマップづくりを活用した活動
や重点継続要医療者支援対策というところの部分についても出てきております。相談支援
活動につきましては、前回の協議会で報告ありましたように生活困窮者対策の部分につ
いても様々な活動が広がってきております。

次に、成果と課題をまとめさせてもらっておりますが、成果としましては住民主体の集
いの場づくりによって①に書いてありますが、地域の見守り体制の構築、支え合いの地域
づくりにつながっていける地域が見えてきております。

②にあります、小地域における住民主体の話し合いの場づくりにより、地域の課題の共
有や可視化する機会ができ、住民の主体的な活動へとつながっていく、いっている部分。
それから、あらゆる地域の定例会、総会等に地域福祉コーディネーターが参加することで、
民生委員、児童委員を始め、地域福祉推進リーダーとの顔が見える関係性が築けてきて
いるという点。4点目が地域福祉の新たな担い手となる福祉委員制度の創設及び地区社会福
祉協議会の活動支援によって、地域ニーズの早期発見につながっている部分。避難行動要
支援者対策を通じた防災と福祉の一体的な取組により地域ニーズの早期発見につなが
っているところが成果で見えてきております。

ただ、課題としまして4点右のほうに書いてありますが、地域住民による地域のニーズ
の早期発見のための体制整備はまだまだ十分ではありませんので、課題の1つ目に挙げ
させていただいております。2番目、住民が主体的に地域課題及び地域生活課題を把握する
機会の拡大。3番目に防災と福祉の一体的な取組を通じた効果的な活動展開の検討。4番
目の地域の実情に応じた共生型の居場所づくりというのが基本目標2の中の課題として
挙げさせてもらっております。

基本目標3の小地域福祉活動の推進の部分になってきますが、市社協の取組と市の取組
を図の中で書かせてもらっております。市社協のほうでは、地域で活動している方の情報
交換の場づくりというのが行われてきましたし、③、④、⑤と地区社協の活動基盤整備、

地区社協の連絡組織の立ち上げ，地区社連の運営支援，地域福祉コーディネーターを中心とした，地域支え合い会議等の開催支援という部分につきまして行ってきまして，市のほうにつきましても話し合いの開催支援ということで，そういった話し合いがどんな部分があるかといいますと，地域内連携協議会であったり，自主防災組織連絡協議会であったり，第一層協議会であったりというふうに27年度以降，新たな話し合いの場は作られてきております。

市と市社協が協働して前に書いておりますような事例等も出てきております。

次のスライドにありますますが，成果と課題としましては，助成金の活用による地域福祉活動の新たな展開や地区社連主催の情報交換会による活動意欲の向上。それから地域福祉の一体的な推進。4番目の具体的な地域課題の発見や小地域単位での見守り活動への展開。5番目，地域住民の活動姿勢の変化というのが見えてきたというのが，成果に上がっております。課題としまして，助成事業等の実施内容の活性化，地区社協活動の活性化等の検討がありますが，③の住民が主体的に地域の福祉課題について話し合うことのできる場の拡充というところで，この3点を挙げさせてもらっております。

次に，指標のほうを書かせてもらっておりますが，基本目標2の部分につきましては指標のほうにつきまして，これも同じくアンケートの結果が出てから出てくる指標もありますので，それ以外の部分につきましては，小地域での支え合い活動の場というのは，いきいき百歳体操の開催箇所数につきましては増加してきております。

それから，住民からの地域福祉に関する相談件数につきましても，件数としては増えてきてる部分，それから生活困窮などは若干減っておりますが，27年度と比べると。その代わりに，市民からの相談件数との割合というのが高まってきております。地域支え合い会議の開催箇所と開催回数につきましては，27年1地区4回だったのが，30年度に2地区7回と増えております。基本目標3の地域支え合い会議を開催している地区社協は先ほどありましたように，27地区中2地区ということになっております。

4番目，地域ケアネットワークシステムの構築の部分につきましては，計画策定時の状況がそこに書いてありますが，社会制度の変化や地域の状況等におきましては，サービスを提供する事業所の増加，地域に開かれた施設の増加，それから，専門機関においても，様々な専門機関による地域の生活支援を検討する会議の開催というのが開かれておりました。社会福祉事業者と地域のつながりは今後更に広がっていくことが期待されており，専門機関が集まる事例検討等に地域福祉の視点を入れることによって，個別の課題から地域全体の生活支援の仕組みへとつなげていくことが重要だということが，この当時分かっておりました。

また，次のスライドでありますように，住民主体の助け合い，支え合いの活動というのが，専門機関では行き届かない個人の実状に合わせたきめ細かな支援が行われているということもありまして，専門機関による福祉サービスが充実することによって，住民同士の支え合いや助け合いの消失の事例が中には出てきたり，住民同士のつながりの途絶という

ところで、つながりがあったけれども、ヘルパーさんが来たり、いろんなサービス、デイサービスに入ったりすると、そのつながり自体が途絶してしまった事例も中にはあったということもありました。ですので、住み慣れた地域での生活を安心して続けていくことができるためには、住民の活動と専門職の連携が必要ではないかというのが、当時言われておりました。それらを基に、基本目標4につきましては、地域の暮らしを支える住民と各種専門職のつながりづくりという計画策定時の取組の方向性を決めまして、方策として4-1, 4-2というのを作っていきました。中間評価では、住民と専門職、サービス事業者が協働した地域づくりの実践の拡大という部分と連携する関係機関の拡大、特に児童福祉、障害者福祉が教育分野との連携強化が課題に挙がっておりまして、方針としてそこに書いてあるとおり、分野を超えた各種団体や組織との連携強化を挙げてきた経過があります。実際に図のほうは書かせてもらっておりますが、地域福祉コーディネーター、この5年間の中でたくさんの活動をしてきました。医療分野のところの地域医療カンファレンスと、高齢分野のところの高齢者支援センター出張所との活動は、計画を立てた当時から活動を通して協働する部分があったんですけれども、それ以外の部分、弱かった部分、薄かった部分、そういった部分について、中間評価の後にたくさん活動をされまして、少し色の付いた星印が付いているのが中間評価後に活動を一緒にしたり、懇談会をしたりということしてきたところになってきております。高知市が行っている部分、いろんな関係機関が行っている部分、そういったところに足しげく通いながらこういった関わりを広げていった経過があります。高齢者支援センター出張所や子ども発達支援センターという子供分野につきましては、色をちょっと付けさせてもらっているのが、認知症の方への支援事例や重点継続医療者支援対策での支援事例ということで個別の事例の部分についてコーディネーターが実際に活動を展開してきたことなんかも入ってきております。

それらの中から次のスライドにあります成果と課題としまして、専門職の参加する会議等へ地域福祉コーディネーターが参加することで個別支援の担当者と地域支援の担当者の顔の見える関係性が築けている点。それから2番目、地域福祉コーディネーター活動を通じた小地域における関係機関との連携強化。3番目、個別支援を実施する専門職と地域福祉コーディネーターの協働からの一人の人を支える地域づくりというのが成果として上がってきております。ですが、課題として挙げてますように、住民と専門職、サービス事業者等の関係機関が協働した地域づくりについては、実践がまだまだ少ないところがありますので、その部分の拡大と地域のニーズに応じた関係機関への連携強化というのを課題として挙げさせてもらっております。

続いて5番目、最後になりますが、地域福祉を推進するための体制基盤づくりにつきましては、この3つの方策を出しておりました。計画策定当時なんですけど、アンケート調査結果から出てきていたのが、市が取り組むべきことということで民生委員さん、民生・児童委員さんを対象の調査結果から情報提供、相談の場づくり、地域福祉を担う人材の育成、地域の自主活動と行政サービスの連携強化、サービスが利用できない、結び付かない人へ

の対応の充実等が挙げられてましたし、市社協が取り組むべきこととしまして、その4点のものが挙がってきておりました。

次のスライドにありますように、市社協の周知度というのがその当時、市民対象調査からしますと、名前も活動の中身もよく知っている、又は名前は知っており活動内容も少しは知っていると答えた方が2割に達していなかったというのが当時の状況です。ただ、自由記載のところでご意見いただいたのが、存在を知っていればもっと頼ったりできるのではないかと。活動を明確にさせていただくと取り組んでほしい希望も伝えられるし、住民の意識の向上にもつながるのではないかとという自由記載を、お声を頂いておりました。住民主体の活動を支援する体制整備と市社協の存在や役割を住民に知っていただくことが必要ではないだろうかというところで活動を進めてきた経過があります。

次のスライドにありますように、計画策定時の取組の方向性がそこに書いてありますが、中間評価で地域福祉コーディネーターの増員という部分と現在の関係課を超えた取組強化ということが課題に挙がっておりまして、方向性はそちらに書いてあるような方向性で後半も活動してきました。その中で図のほうに書いてありますが、地域福祉コーディネーター、それから市社協の活動としまして、いろんな課とつながりが広がってきた経過があります。色が付いている部分については、地域福祉活動推進計画、地域福祉計画のワーキンググループに関連する5部14課が色が付いてありますが、それ以外にも高齢者保健福祉計画のワーキングのメンバー、それから、障害者計画のワーキングのメンバー、そういったいろいろな機会を通じまして、市社協、それからコーディネーターのつながりというのが広がってきております。成果としましては、次のスライドにありますように、地域福祉コーディネーター増員による地域支援体制の充実。コーディネーターの活動周知で連携機会が増加してきたこと。それから、3番目に児童福祉、母子保健、障害者福祉、高齢者福祉、学校教育分野との連携の推進。4番目、防災福祉部会の開催を通じた地域防災、地域コミュニティ、地域福祉に関する情報交換、連携機会の増加、市または市社協主催の研修開催による市、市社協職員の資質の向上というのが成果として見えてきております。

課題としましては、地域福祉コーディネーター4名体制から今15名体制になってきたんですけれども、やはり経験年数、いろんなことが、皆さんたくさん経験をされてきた方と今経験を始めた方とばらつきがありますので、スキルアップ体制の整備というのを1つ目に挙げております。2番目としましては、高知市各課及び職員の庁内連携体制の強化。3番目としまして、地域づくりに関わる関連各課と市社協との協働体制の更なる強化というのを挙げております。基本目標5の指標としましては、まだアンケート結果が出てきておりませんが、周知度が2割に達していなかった市社協の周知度が今回の調査でどれぐらい周知が広がってきているかが、また2回目の推進協議会の際に報告できるかと思っております。各基本目標における取組からの課題は、これまで説明してきたものを1枚にまとめたものが次のスライドになっております。

続きまして、現計画における総括という部分になりまして、当日配付資料2-2に一覧

にさてもらっております。お手元にすみません、当日配付資料2-2の準備をお願いいたします。A4横の分になりますが、これらの部分で評価指標を付けらせていただいております。Aが現在の取組が、これまでどおりの取組を継続していくべきではないかというのがAの評価です。Bというのが、これまでの取組を継続するだけでは十分ではなく、新たな取組を付加していく必要があるのではないかというのがBになります。Cが取組自体を今までのやり方では十分ではないので見直しを掛けて行っていく必要があるのではないかということで、ABCの評価でそれぞれの基本目標について付けさせていただきます。これらにつきましては、事務局の中での評価になりますので、今日、是非、皆様からご意見いただければと思っております。

「おたがいさまの住民意識づくり」につきましては、Cという評価を付けさしてもらってるんですけども、様々な活動というのを住民意識づくりというのにつきましましては、きっかけづくりも福祉人材の育成も含めて行ってきました。しかし、評価の文書の中の2段落目に書いておりますが、これまで試行的に行ってきたきっかけづくりや、福祉人材の育成について、幅広い年代層も共に地域福祉活動に参加できるよう、幼少期からの福祉教育の実践及び若い世代のニーズに合った地域福祉活動の提案等に取り組んでいく必要がある。また、住民の地域の福祉課題の関心を高めるための取組も必要であり、ボランティアセンター機能の更なる強化と併せて、これまでの啓発活動の検証及び見直しを行う必要があるということで、Cというふうに評価させていただきます。

2番目、小地域での支え合い活動の推進とニーズの早期発見につきましては、いろんな活動が高知市広がってきております。子ども食堂の活動も、数もかなり増えてきておりますし、災害対策の対応についてもいろんな活動が見えてきております。ただ、活動の広がりは見えてきたんですけども、取組の情報交換会というところ、またの次に書いておりますが、地区社協の連合会主催で実施されてもきております。ただその一方で、やはりまだ活動がこの5年間一部の地域に限られているという点や、今後、福祉委員・気くばりさん等の活動の推進、居場所づくり共生型の部分も含めて、子供からお年寄りまで住民さんが来れる居場所づくりや見守り体制づくりというところについて、広い地域への小地域福祉活動の展開が必要ということで、まだまだ一部の地域に限られている部分を広げていくというところで、展開の部分を検討が必要だということがあります。また、そのためには住民が主体的に地域課題及び地域生活課題を把握する機会の拡大や、防災と福祉の一体的な取組等、効果的な活動の検討と何より実践が必要な部分がありますので、これまでの活動の検証をした上で、困ったときに助けてと言える住民同士のつながりづくりとなる新たな取組が必要であるということでBとさせていただきます。

3番目、地域での支え合いの仕組みの構築につきましては、小地域における住民主体の話合いの場づくりということで、先ほど地域福祉コーディネーターが場づくりの活動を行ってりましたが、住民座談会、地域支え合い会議の開催箇所数というのは現在2カ所ということで、今後、地域課題の解決に向けた話合いの場の拡充が必要であるということを書

いております。また、小地域福祉活動で生じる共通の課題について、地域の様々な組織や団体、専門職を含めて話し合うことのできる場については、既存の取組というところでもまだまだ私たちが把握できていないけれども、地域の実情に応じた話合いの場づくりがされている部分もあるかもしれませんので、これまでの取組を検証した上で、新たな取組が必要ではないかと書いております。

4番目につきましては、地域ケアネットワークにつきましては、住民と専門職、サービス事業者の事例というのが何事例か出てきておりますので、その部分については大事にしながら、ただ、2行目に書いてますが、実際には個別の支援をしている専門職と地域支援をしている地域福祉コーディネーターとの協働が十分とは言えないということで、先ほどコーディネーターの総括の部分でも出てたと思いますが、それぞれの専門職の感じている地域課題、地域生活課題、個別支援に必要な社会資源情報等の共有を基に個別支援の課題から地域支援の展開へと発展できるような仕組みの構築が必要というところで、Bという評価にさせてもらっております。

最後に、地域福祉を推進するための体制基盤づくりになりますが、こちらの部分につきましては、この5年間、高知市と市社協双方に情報共有と連携を推進してきました。ただ、この間、人口減少・少子高齢化など、社会情勢や地域の置かれている状況が急速に変化してきております。その中にいれば子供、高齢者、障害者など全ての人々が地域・暮らし・生きがいを共に作り、高め合うことができる地域共生社会の実現を掲げ、その実現のためには福祉の領域だけではなく、商業、サービス業、工業、農林水産業、防犯・防災、環境、町おこし、交通、都市計画など、そういった幅広く人、分野、世代を超えて地域経済社会全体の中で人、物、お金、そして、思いが循環し、相互に支える、支えられるという関係ができることが不可欠ということを示唆してきており、教育分野との連携も含めて福祉でのまちづくりの視点のもと、全庁的に取り組んでいくことが重要ということで、評価をしてきておりますので、今後は高知市・市社協のみならず、住民や企業、社会福祉法人、医療機関など地域社会を構成する様々な団体との連携協働体制の構築にも取り組んでいかなければならないという部分でBという評価にさせてもらいました。

以上で、高知市のほうから市社協の活動、高知市の活動を通しまして、総括のほうを報告させていただきました。十分ではない部分があると思いますので、是非皆様からご意見を頂ければと思っております。よろしく願いいたします。

(玉里会長)

ありがとうございました。また委員の皆さんも聴取ありがとうございました。

今期の計画の中で、高知市の取組はもちろんのことでございますが、市社協の地域福祉コーディネーターも15名配置され、飛躍的に高知市の地域福祉力が向上したのではないかとということが資料等で分かったわけですが、個別にはそれぞれ取組がまだ、いや課題が明らかになってきたところであるという報告であったかと思えます。今、お手元の最後にご

説明いただきました当日配付資料の2-2のほうに、その辺りがコンパクトにまとまっているのではないかと思います。正しく量の整備の成果というものが上がってきていますが、次期に向けて量はもちろんのことですけれども、質の在り方やまた新たな取組が必要ということで、資料にまとめていただきました。

高知市社会福祉協議会さんのほうから地域福祉コーディネーターの活動の総括、それから高知市のほうから地域福祉活動推進計画の一定の評価ということで、お話ございましたけれども、まずはこの点におきまして、ご質問や少し分かりにくかったところ、あるいは補足の説明等、お聞きしたいことなどがありましたら、委員さんから出していただきたいと思いますが、いかがでございましょうか。

(東森委員)

NPO高知市民会議の東森でございます。報告ありがとうございます。

私のほうから、資料②の地域福祉コーディネーターの活動の総括にちょっと関連する内容で、質問といいますか、現場談を聞かせていただきたくしたらと思うんですけども。最終ページの課題のところ、住民と専門職のネットワークの構築ということで、社会福祉コーディネーターさんが活動されるにおいても、現場での課題をこちらに記載をいただいておりますけれども、運営面というんでしょうか、地域福祉コーディネーターさんが活動される運営面での課題、例えば人員数が先ほどは12名の予算で実際は15名が配置されてらっしゃるとおっしゃってましたけれども。15名で十分な数なのかどうか、地域福祉コーディネーターさんご自身はどのようにお考えになってらっしゃるかとか、現場で求められている、例えば5年前にはもしかしたらそんなこと必要なかったかもしれないけれども、現在の地域住民との交流の中ではこういったスキルが必要になるのかなとか、あるいは資機材、実際の道具であったりとか、あとそれらを支えるような予算とか、そういった面で現場の地域福祉コーディネーターさんがご自身が活動されるにおいて、課題だなとか、ここがもっとこういうふうになれば地域福祉コーディネーターとして能力を十二分に発揮できるのになどいったようなところはありますか。なければ、今はもう十分ですっていうことであれば、あとは先ほどおっしゃっていたように、質を追求していくということになるのかなと思います。よろしく申し上げます。

(玉里会長)

それではご回答をお願いします。

(事務局 高知市社会福祉協議会 馬場)

ご質問ありがとうございます。高知市社協の馬場です。

質問にあった内容なんですけれども、まずは人員的に十分かというところになるんですけれども、全国的に見ましても、全国の研修等に参加をしますと、この中核市の規

模で15名ほど配置をしているっていうのは珍しいっていうのは言っていただけます。その中で高知市としても、市社協のほうにある種期待をかけていただいて人員を配置をさせていただいてますので、その分は今のところは十分足りているといたしますか、まだまだコーディネーターの力量という部分で至ってない部分があるかなというところにはなってきます。この最後のページにあります住民と専門職のネットワークっていう部分で、専門職との連携というところの運営面での課題というところですけども、スキルの部分で、先ほど高知市及び高知市社協のほうからの報告でもありましたとおり、地域の資源、集いの場であったり話合いの場っていうところであったり、あとはそういう場だけではなくて人材っていうところ等へ数多くつながってくる中で、いろんな形で支えてくれる住民さんであったり地域の支援組織というものが見えてきたんですけども、じゃあ果たして個別の課題、生活のしづらさであったり生きづらさというものを抱えている住民さんにどのように寄り添ってというところで、どの部分で住民の地域力というものがいかせるかっていうところの、いわゆるアセスメントの能力であったり、あとはおつなぎするにしても何となく、例えば認知症の高齢者の方がいるから地域で支えてよっていても、そんな大それたことは私たちにはできないっていうのが地域の方の大方の反応だろうとは思うんですね。そういった部分で、よりコーディネーターが地域っていうところの力を引き出していく中で、より具体性を持ってそこを伝えていく。例えば見守りをしてほしい。見守りをしてほしいというところにつきましても、もう少し踏み込んでみると、例えば週に何回してほしいとか午前なのか午後なのかとか、どれぐらいの頻度してほしいのかっていうことも含めて、お伝えをしていくっていうことであったり。子ども食堂が今すごく広がっておりますけれども、子ども食堂の支援をしていただくボランティアさんとかに対しても、より具体性を持って伝えていくっていうところで、勉強を教えてほしいっていうよりは掛け算を教えてほしいとか、そういうようなイメージで少しかみ砕きながら住民の方に協力を呼び掛けていく、できそうなことをお伝えをしていく。できそうなことをお伝えするために地域の課題をたくさん集めるっていうところが、コーディネーターのスキルという部分とか運営面での課題っていうところでは、必要になってくるかなというふうに思います。ですので、そういった部分の、まずはコーディネーターのスキルっていうものを上げていきながらっていうところの先に、例えば集いの場を作るっていうことに関しても、他の他市の中核市であればそういった集いの場っていうものを運営していくに当たって、補助金っていうものが市のほうから、行政のほうから出ていたりっていうところで。そこでよりそういった場づくり、そういったものを加速をさせていくと、そういった取組をしている他市もありますので、そういった部分では今後の見通しとしては、そういった部分も運営面では必要になってくるかなというふうには思っております。

(玉里会長)

ありがとうございました。

どこからでもっていうことではあったんですが、ご質問ということでしたが、今、地域福祉コーディネーターさんのほうから、専門職との連携とか集いの場づくりの、また地域では加速化も図られているということをおっしゃっていただきましたので、それも課題に挙がっておりましたので、もう少しここのご意見があれば、少し頂いて。あと、委員の皆さんからも何かあればと思いますが。この地域福祉コーディネーターさんと場づくり、あるいは地域にあります専門職や専門機関との連携等で、何かご意見ある方いらっしゃいません。

(山下委員)

すいません、公募委員の山下です。

ちょっと地域と専門職種、サービス事業所との連携というところで、介護支援専門員であったりとか、障害児、障害者に関わる相談員さんとの情報連携とかっていうところを今、関わっていきながら地域に入っていたらという報告もありましたけれども、その中でやり取りされる情報っていうのが非常にデリケートな部分の情報も非常にあるというふうに考えられるわけなんですけれども、そういう細かい情報に関するやり取りの取決めとかということに関しては具体的な取決めが今あった上で動いているのかどうかとすると、やっぱり情報の取扱いの状態によっては逆に入り方を間違えてしまって、入口が閉ざされてしまうということもあるんじゃないかというふうには考えられると思います。

あと1点ですね。サービス事業者っていうところを考えると当然、企業、営利法人であったりとか医療機関であったり、いろんな法人に所属されてる職員の方がいらっしゃると思うんですけれども、中には地域に出て頑張ってみたいという熱意のある方もいらっしゃると思うんですけれども、やっぱり運営上の経営上の問題でなかなか外に出してくれないというようなところも一つ思われるわけですが。地域コーディネーターさんはいろいろ動かれてると思うんですけれども、そういうところでちょっと壁に当たったりとかっていうところは、ちょっと一つないのかなというふうに思いまして。ちょっとその辺りをお伺いしたいと思います。

(玉里会長)

では、質問2点ですね。情報の管理ややり取り、取決めの扱いのところと民間の方々の連携の仕方。その辺りでお答えください。

(事務局 高知市社会福祉協議会 馬場)

ありがとうございます。高知市社協の馬場です。

1点目の部分で、デリケートな情報が大変多い個別のケースっていうところの情報のやり取りっていうところの取決めっていうところなんですけれども。性善説と申しますか、地域ケア会議っていうところに出ていくっていうところについても、やはり専門職として大前

提に個人情報保護であるとか、他の部分について他言しないっていうところはもちろんなんですけれども、やはりそういった情報、デリケートな部分が多いっていうところも含めまして、より個別支援に関わってる、例えばケアマネさんとかからの情報共有をしていく中で、入り方についてもより検討を重ねた上で、例えばコーディネーターから入るのがいいのかっていうことであったり、ケアマネさんを通して入るのがいいのかっていうところも含めて、話し合いを密に重ねた上で個別には関わっていているというところなんですけれども。まだまだ絶対数という部分で個別の事例に地域福祉コーディネーターが関わっているケースっていうのが大変少ないですので、まだ明確に個人情報の部分であったり情報の取扱いについて、お互いの中で取決めをしている明確なものがあるっていうわけではないんですけれども、今後そのような地域支援、特別支援っていうものをつないでいく過程の中で、そういった部分についてもルールづくりをしながら取組を進めていかなければならない、そういった部分は課題の一つっていうところには挙がってくるかなというふうに思っております。

続いて、サービス事業者であったり医療法人の中で、限られた人員配置の中でどうやって地域に出てきていただいて連携をしていくかっていうところになるんですけれども、やはり今、そこはすごく課題といたしますか、やっぱり壁にぶち当たっている部分かなというふうには感じております。我々地域福祉コーディネーターというのは、地域づくりってところを主に、今メインで動いておりますので。ある種、それが業務っていうところにはなるんですけれども。ほか、例えば1つの地区の中で企業の連携であったり、介護、医療の連携であったりっていうようなところで話を進めていくってところについても、やはり医療の現場であれば医療ってところの本来の業務をやりながらの、その先の地域づくりになってきますので、なかなかそこまで求められないというか、負担を掛けられないというような現状は、やはり人員の部分ではあるかなというふうに思います。ただ、すごく、こういう言い方はあれですけども積極的なといたしますか、今、社会福祉法人の公益的な活動っていうところも出てきておりますが、より地域に・地域にというような形に、地域に対して出ていこうってところの姿勢が、積極的な法人であったりというところの職員さんに関しては、積極的に出てきていただいたりとか、あとは時間外ですね。例えば今日のような形で6時半から連携の会を持つってような形で出てきていただいているってような現状も少しずつ出てきておりますので、そのような部分から我々コーディネーターも関わりを持ちながら、連携を深めているってのが現状かなというふうには感じております。

(玉里会長)

ありがとうございます。よろしいでしょうか。

社会福祉法人さんの地域貢献も問われているところでございますので、何かこの辺り、また続いてご質問やご意見ありますか。

(三橋委員)

社会福祉士の三橋です。

先ほどの質問に関連してなんですけれども。地域ケア会議などに出席されて、やっぱりケアマネジャーさんの意識として、フォーマルサービスでもう間に合っているという方もまだまだいらっしゃると思うんですけど。そういう中でやっぱり地域課題として一緒に、地域課題の種を見付けていくっていうふうなコーディネーターさんの働きかけの仕方とかいうのは工夫されているかなっていうのと、やっぱりコーディネーターさんの役割を知らないっていう方もまだまだいらっしゃると思うので、この部分に対しての啓発されていることがあれば教えてください。

(事務局 高知市社会福祉協議会 馬場)

ありがとうございます。高知市社協の馬場です。

フォーマルサービス、インフォーマルサービスの部分で、どのような連携であったりというところにはなると思うんですけども、働きかけの部分で、地域課題の種というところで、正直なところ、個別支援に当たられている方というところと連携をさせていただく中で、やはり私も前職のところで個別支援だったんですけども、フォーマルなサービスというところでインフォーマルなサービスをそこにに入れていくときに、即時的な対応を求めるところがすごくあるんじゃないかなというふうに思うんですね。それがどういうことかという、やはり今日相談して、今日例えば見守ってくれる方が欲しいとか、明日欲しいとかっていうところで、やはりどうしてもそういう部分にはなってはくるんですけども、そういう部分でより、なかなか地域の住民さんに育ってってもらうとあれですけども、地域力を上げていく中では、そういった課題っていうものを、例えば見守りが必要なケースであれば、それを地域に投げてみると。その中で、地域の方に考えていただいた上で、それに対応できる体制、そして組織というものを作っていくと。そういうような少し時間を掛けて対応していくということが必要ですので、そういった部分は日々の連携というところ、専門職の会議であったり、そういったところで顔を合わせたり、個別のケースを通じて顔を合わせたりしますので、そういった部分でお伝えをさせていただきながら動いていると。あとはやはり具体例ですね。本当に一緒に動いてみて、どんなふうに地域が変わって、そして一個人の方がどんなふうに生活が良くなったか、そういった部分を一緒に体験をしていくと。そういった事例を高知市の中で作っていくことでお伝えができるかなというところは、少しずつ成果としては見えてきている部分じゃないかなというふうに思っています。そのようなところでは、今ほど、今、ご質問いただいた内容のように、先ほどの私の報告にもありました気くばりさんであったり、福祉委員さん、すごくいろんな思いを持って高知市社協のボランティアセンターに登録はしていただいているんですけども、実際にその活動につながっているかという、なかなかまだまだ課題が残る部分にはなりますので、そういった部分でそういう個別の課題に向き合ってる専門

職の方からそういう事例を頂くことで、実際、地域に投げしてみるっていう経験っていうところを今後重ねていきたいなというところと、そういった話はいろんな形で先ほど朝比奈さんのほうから報告のあった連携機関との協働の中で、こういうケースについては、地域福祉コーディネーターが動けますよというような形で、啓発のほうはさせていただいているというのが現状というふうになります。

(事務局 健康福祉総務課 朝比奈)

健康福祉総務課、朝比奈ですが、1点だけ補足させていただきます。

資料①-1の20ページ、取組状況を細かくこちらに書かせてもらっております。4-1の部分なんですけれども、27年度以降、かなりいろんな場所にコーディネーターさん出席していただきまして、なおかつ個別の事例についても、各専門職が地域福祉コーディネーターさんに相談してみようかという声が上がったときに、その活動がその個人の方からもつながれて良かった、住民の方からも相談していただいて良かったという事例が、数が少ないですけども出てきております。あるケアマネさんが、障害者相談支援のほうも兼務されてる方が、相談して良かったよと、こういうふうに変化があったよということを総会だったりとか、理事会だったりだとか、専門職の場でも報告していただいて、やはり体験された方がどうだったのか、それを受けた住民の方がどうだったのかというところの報告する場がまだまだありませんので、少ない事例でも大事にしながらCSWの報告、当事者の住民の方の報告、関わった地域の方の報告というのを知っていただいて、可能性というのをまず見付けていただくことが大事ではないかと、市のほうでも考えてますので、積極的にそういった場というのを作りたいと思っておりますので、その足掛かりとして、今年度8月の2回目の推進協までに専門職にアンケートを採ろうと思っております。コーディネーターさんを知っているかどうか、役割を知っているかどうか、協働したことがあるかどうか、そういったことだったら協働できるのではないかというところが、まず今、現状どんな状況かを知った上でそういった活動報告を積み重ねて、地道に一事例一事例を大事にしていきたいというふうには考えております。

以上です。

(玉里会長)

はい。ありがとうございました。

はい、どうぞ。

(長尾委員)

町内会連合会の長尾でございますが、コーディネーターの活動の部分を受けて質問もございましたが、ちょっと非常に私感動したことを、コーディネーターの方で感動したこと、旭の事例で申し上げたいと思いますが、実は先週の土曜日、旭の町内会連合会の総会をや

りまして、約80人ぐらいの町内会長が出席しました。その前に、4日ぐらい前に別の会がございまして、コーディネーターさんに来ていただいて、「是非、長尾さん、町内会連合会の総会に参加させていただきませんか」というお話がありまして、夜の懇親会もありますけどお金も要りますということで、是非、雰囲気を知りたい。我々も高齢者認知症の予備群でございますので、そういうことで一つ参加していただきました。我々の1時間、2時間半でございましたけど、話を聞いていただいて、懇親会へもコーディネーターにも参加していただきました。

また、今日でございますけれども、旭の同じ旭でございます老人クラブの総会を来週の日曜日、6月3日にするようにしております。ちょっと時間が1時間ぐらいありまして、認知症の勉強会をしたいということで、急遽、今日昼前に電話させていただきました。是非、参加して、認知症、別の話も高齢者の話もあります。もちろん老人クラブですので高齢者ばかりです。若い者は誰もおりませんので、そういうことを今日話して、今日知った。了解していただいて、ふだんの日じゃない日曜日でございますので、会長がおりますけど、代休か超勤が出るか、非常に恐縮しておりますけど、そういうことで積極的に地域に入ってきていただいております。本当に要請なしに積極的に自分らが、コーディネーターが少ない方々が地域で土曜日でも日曜日も関係なし、呼んでいただいたら行きますよと言っていたく。本当に我々感謝をしておりますので、是非、これからも町内会とか老人クラブ、いろいろ組織がございまして、民生委員の会議もございまして、積極的に出ていただいて、我々の悩みを共に若者の方のご意見を聞きながら、勉強していきたいと。我々は年寄りももう一遍はみかえり、地域を元気にやっていきたいという思いを持っておりますので、是非よろしく、これからもよろしくで。これは本当に頭の下がる良い例でございますので言わせていただきました。

(玉里会長)

ありがとうございました。張り切っておりますね。ありがとうございます。地域にしっかりと寄り添って活動されてる様子をご報告いただきました。

それでは、少しコーディネーターさんに質問とか。

どうぞ。

(石橋委員)

長尾町内会連合会長よりちょっとだけ若い一宮コミュニティの石橋でございます。

先ほどからずっと講師のほうで説明をいただきまして、1時間の間にこれだけの5年間の活動をずっと説明をされてきたわけですけど、話を聞いてまして、これだけのことをずっとできてあるのは、2025年か、あと5年後、10年後は何とかなるやろうというふうな気はしたんですけど。ただ、現場で私も地域活動を行っております、町内会、それからコミュニティの活動を行っておりますけれど、そのようなときにどうもすんなり入って

こないというのか、本当これだけ地域は進んでいっておるのだろうかという思いは実はあるんです。確かにすばらしい取組をされてます。しかしながら、このままで果たしていいのかどうかということも、次の計画の中に組み込んでいく必要があるんだろうと思いますし。実際、今、現場でやっておられる例えば馬場さんとか、そういった現場の方々、現場で地域活動をずっと進めてこられてきているコーディネーターの方々、皆さん方の評価、点数で言えば一体何点なのか。あるいは、高知市、あるいは高知市社会福祉協議会の会長さん辺りが、この今までの5年間を評価して一体何点なのか、100点満点で。そこら辺りも聞いていきたいし、いろいろ課題もあるんだろうと思います。課題はあるんだろうと思いますけど、これをこの一点突破で何とかやるだろうという、そういうものがないのかどうか。ちょっとそれだけをお聞かせ願いたいなと思いますけど。

(事務局 高知市社会福祉協議会会長 吉岡)

市社協の責任者として、自画礼賛ではないんですが、この5年間よくやったというふうに思ってます。というのは、客体としての地域の実情がどういう状況であったか、これは地域差もいろいろありますけれども、今、長尾委員さんが言われたように、地域コーディネーターが地域へ入ったときに、すんなり受け入れてくれるところとそうでないところもあるわけですし、例えば旭地区は3万7,000人で、四万十市と同じ位の人口規模の地区から、御豊瀬、浦戸といったような狭小の地域も非常にあります。また、同じ旭地区でも電車通りと北部の新興住宅とでは住民の意識とか、すごく違いがあるわけです。地域福祉コーディネーターが、この計画策定と一緒に4名が配置されましたけれども、旭という地区名は知ってますが、実情は詳しいわけではない。そこを駆けずり回る。受け入れてくださるところとそうでないところもある。地域の指導的立場の人々との人間関係を作ることから始めなければならない。だから私とか事務局長なんか一緒に行って顔つなぎをして、そして土佐は酒の国ですから、とにかく一緒になって酒を飲むとかいったようなことをしました。この助走期間と言うべき期間を含めて考えてみました時に、5年間の間の内、期を含めて考えてみましたときに、5年ではなしに最初の3年ぐらいは助走だったというふうに思うんです。その後2年間位で成果を生み出す土壌が形成されてきたのではないかと思います。地域福祉活動というのは、全市域を一遍に投網をかけるような感じでは進まない。先ほど言った地域の問題ですから、馬場のほうから報告しましたように、小地域でいかにそこで完結させていくかそのような視点で取り組んでいくことが非常に大事になってくるわけです。だから出来るだけ早く典型的な事例を作っていくことで、その事例を町内会単位ぐらいで作ったときには、その経験をその地区で共有をさせていただいて、そういうことなら我が町内でもできるというような形で進むことが出来るよう経験交流の場を作っていくというのが大事ではないかと考えています。現在、成果として挙げていますように、地区社会福祉協議会の連合体を作って、大体2月に1回ぐらい情報交換会を行うことで経験交流をしております。これは回数を経るに従って非常に豊富な事例が出てきて、

それを一つの教訓にしていきながら、「あっ、この程度だったら、うちでもできやせんか」という形で取り組んでいただいておりますというのが、ここ2年、3年の経過ではなかったでしょうかと思っています。ただ課題は、先ほど報告にありましたように、色々なまだ課題があります。今後は、やはり担い手をいかに養成していくかだと思います。そのために、我々は福祉委員制度と気くばりさんの制度をはじめました。同時に、そういう方々を委嘱をしたり、お願いをしつ放しではなしに、ボランティアセンターを活性化をしていって、一方では、ボランティア先としてどんなところにあるかというボランティアニーズを探っていく。ボランティアバンクを作り、そしてマッチングをさせていくことにより、機能化させていく。そうした取り組みが、これから大きな課題ではないだろうかというふうに思います。

先ほど山下委員さんのほうからも指摘させていただきましたけれども、今、高知市社協が事務局になって社会福祉法人の地域連携と地域貢献を進めるために、今、準備会を作りまして、この8月の初旬には協議会が正式発足します。現在、準備会が4回目ぐらいの議論をしておりますが、その中で、例えば地域の町内会とか近隣の防災会と連携をして、その法人の施設が避難場所になり、そこを、食料等のストックヤードとして活用するなど、地域に根差した諸活動が報告されています。この動きが本格化してきますと、そこは専門職の集団ですので、その専門職の方々と地域福祉コーディネーターが、住民あるいは住民組織とがタイアップする。そのことによって、今までとは違い、地域における体制整備が飛躍的に進んでいくのではなかろうかと考えています。そういう専門職が中心になって地域福祉を考えていただけるというような状況が生まれてきますと、一般のボランティア、地域住民の方が非常に安心し、地域活動に対して協力をしていただけるし、一緒に取り組むことができるようになるのではなかろうかというふうに思います。だから私はこの第2期の計画というのは1期の計画の状況と違った、もう少しレベルの高いステージでいろんなことが展開できるのではなかろうかというふうに思っております。

何点かということをおっしゃいましたが、非常に点が付けにくい。高くすると自画自賛と言われるし、低くすると後ろから怒られますが、5段階相対評価でやれば、私は4.5ぐらいではなかろうかというふうに考えています。

以上です。

(玉里会長)

ありがとうございました。

(事務局 健康福祉部長 村岡)

すみません。一応私にもということでしたので、手短に申し上げますけれど、評価としては我々としても、この地域福祉活動に取り組んできて成果が上がってきているという評価をしておりますし、評価をしてなかったら地域福祉コーディネーターというのは最初の

4名の体制から市の助成が12名まで29年度から増やしておりますけれど、そういうことにはなっていないかと思っていますので、市社協の会長が4.5と言いましたけれど、4点ぐらいの点数は付けてもいいのではないかというふうに私も思っております。ただ、やっぱり地域的には様々、現状としては課題があるということですから、それをいかに進めていくのかということが必要だと思っていますし、3月に開催したときの会の冒頭の挨拶でも申し上げましたが、なかなか進んでないというのも実態のところではあるとは思いますが、ただ、それについて私たち自身が可能性を諦めてしまえば、それで終わってしまうということだと思っていますので。やっぱりこれから意識的にも先ほどの社会福祉法人の取組の問題とかありますけれど、やっぱり変化が起こってきておりますので、そういうところをより第2期の計画の中では進めていく。そうしていくことによって大きな変化というものも生まれてくるのではないかと思います。

また、地域の中では、つながりは一杯必要だと思っはいるんですが、それほど深いつながりは一方では求めていないというところもあるかと思っていますので、やっぱり人と人との関係性というのは非常に微妙なところというのがありますけれど、いざというときには何かの助けになるというふうな関係性も含めてつながりをつけていく。特に高知の場合は南海トラフ地震が必ず来るということも言われておりますので、そういった際にちょっとでもお互い助けになるよという、そういう関係性を作ることによって高知市もまだまだ捨てたもんじゃなないなと思えるような地域ができていくんじゃないかと思っていますので、皆さんと一緒にまた意見をお伺いしながら取組を進めてまいりたいと考えています。

(玉里会長)

ありがとうございました。

どうぞ。

(石橋委員)

私が実は申し上げたのは、今日、本日ここに50名から100名、100名もいらっしゃらないんですが、私たちも入れて相当数の方々がいらっしゃる。その方々、皆さん方は恐らく地域で、この地域福祉っていう部分がどういうふうに動いているのかっていうのが実感をしておられるかどうかっていう辺りですよ。本来ならば地域福祉計画5年間たって、これからまた5年間、6年間進めていくその中で、それぞれの地域に住んでいる地域の皆さん方が実感できるような、そういう福祉、地域福祉計画。これが必要だろうというふう思うんですね。それと同時に行政の皆さん方も、やはり地域に関わるっていう、そういうことがないとなかなかやっぱり実感すらできない、実感もできない。あるいは、なかなかこういう福祉計画は進んでいかないということになるんだろうと僕は思います。したがって、これからの計画アンケート採ってやるんでしょうけれど、それについて本当に実感できるような内容のものに持っていただきたいというお願いだけしておきます。

以上です。

(玉里会長)

ありがとうございました。

さて、今回ですけれども8時半までということでお伺いしております、しっかり時間は厳守で終わりたいというふうには思っておるんですけれども、せっかくこれだけの委員さんお集まりいただいておりますので、まだ発言のない委員さんからは一言ずつ手短に頂戴したいなというふうに思っておりますが、渡辺委員さんのほうから少しせっかくでするのでご意見していただければ。

(渡辺委員)

高知県保育士会から来ております福井保育園の園長の渡辺といいます。

自分の分野なのでちょっと細かいところで、当日配付資料の②-2のところ、「おたがいさま」の住民づくりのところの評価がCというところで、その中にも、やっぱり福祉教育の辺り、幼児期からの福祉教育という部分で、私の園でも「ほおっちょけん学習」は始めましたし、いろんな園さんにも紹介はさせていただいたんですけれども、まだまだ周知という部分ではまだ足りてない部分もあるのかなというの思います。でも、先日、馬場さんのほうも高知市の民間の保育の協議会の総会でも「ほおっちょけん学習」の説明もさせていただいて、園長先生なんかにも話すと、結構この話するとすごく関心を持たれているんですね。今回僕も今年紹介したところにすごく関心持って、是非やってみたいですという話があるので、多分その辺りもうちょっと保育園のほうでも、もっともっと紹介して下さって多分、園長会でも次、詳しい説明して下さるという話があったんですけども、その辺りをどんどんして下さると多分保育園ではどんどんどんどんこの辺りの福祉教育の分野では広がっていくんじゃないかなと思います。

(細川委員)

いきいき百歳応援団の細川です。

先ほど石橋さんに言われて、経過っていうか、答えをっていうお話でしたけど、やっぱり福祉っていう問題は、今の高齢者たちがご近所で助け合った時代ががらっと変わって何十年か今の若い方たちが経過されて、お互い様とか助け合いとかいう意識が余り無くなった時代が長いんで、本当に期間が短く、いろんなお答えを出すというのは大変なことじゃないかと。いろんな体操会場を回って思いますのは、本当に迷惑を掛けたくないっていう方が非常に多い。じゃあ、迷惑掛けなくて棺桶一人で入れるのっていう話なんですけど。やっぱりそこな辺の意識改革を高齢者にもこれ必要なことじゃないかなっていうふうに感じながら捉えました。

(島元委員)

これは部長への要望も兼ねてますけど、要援護者、高齢者台帳に関する事で、先週、広島県の呉市へ川崎会長も一緒に社協も市も同行して行きまして、向こうの呉市の会長さん女性で、高知でいうのはちきんのような元気な方で、私が質問をしまして、高知市高齢者台帳より住所、氏名、年齢、単身が分かるそれぞれ記しがございまして、向こうには何と介護保険の要介護1、2、3、障害者の程度も入っているという。もう高知市はそういうの入りませんけんね。藤崎会長もハッパをかけられて「そんなことじゃいけませんじゃないですか、もっと高知市へ働きかけないかんじゃないですか」というようなハッパをかけられましたけど、是非、高知市もこの台帳にそういうことが分かるように。そういうことが分かれば、その単身で。昨年も電話があつて、新聞がたまっているがここはどうなっているかということで、私そこへ行ったんですけど、そこに誰もいないから分かりませんでしたけど、結局、最終的には入院していたことが分かりましたけど、そういうことが分かっていたらまたあなた方がニュースでも結果が分かるきっかけにもなる。是非お願いしたいと思います。

(西村委員)

すずめ共同作業所で日々障害のある人と関わっている仕事をしています。私も障害のある人と関わっていて強く感じる事が一つあります。それは貧困問題ですね。障害者問題と貧困問題がくっつくと掛け算をしたように生活課題が拡大していくという、そういうことなんです。本日、当日配付資料の②-1で説明していただいた中でも、8ページのところの中間評価後の取組の方向性というところで、生活困窮者等の支援を必要とする人の早期発見と早期対応。この中で課題があるということを提起されています。

そして、ページ数12ページのところで、高知市社協が取り組んでおられます高知市生活支援相談センターのこの件数が700件弱あるということ。これは非常に大きな問題じゃないかなという、課題じゃないかなというふうに思います。それでこういった貧困問題についても次期の計画の中に付け加えていただけるような、そういった方向につなげていただきたいと思いますというふうに思います。したがって、今回の評価の一覧の中にそういった貧困問題、市社協さんがせっかくやっている生活支援相談センター、そういったことについても取り入れていただけたらというふうに、こんなふうに感じております。

以上でございます。

(玉里会長)

ありがとうございます。

(武樋委員)

児童家庭支援センター高知みそのの武樋と申します。

児童家庭支援センターは、現在、子育てをされている方、いろんな課題を抱えながら子育てをされている方々の支援をさせていただいているセンターです。専門機関として、何かできることがあるのではないかなあと思いながら、お話を伺っておりました。また、社会福祉法人の一員として、先ほど市社協の会長さんがおっしゃったように私たち専門職がしっかり力を発揮すべき事柄なのではないかというふうに思いました。

児童家庭支援センター高知みそのがある、みその児童福祉会は、高知市の中心部にありまして、4つの事業所を運営しております。なので私たちは子供の福祉に関わる部分ではありますが、私たちが地域の皆様と一緒にできることをまた、この会を通して考えていきたいと思いました。

ありがとうございます。

(川崎委員)

私、地区社会福祉協議会連合会の川崎でございます。

地区社連と俗称しておりますが、先ほど吉岡会長さんからお話がありましたように、平成26年の4月に設立されまして、ちょうど丸4年経ったわけでございますが、この中で各地区社協間のいわゆる情報連携と申しますか、地域福祉活動推進のためのいろんな情報交換は進んできております。あとは各地区でいかにしてこの地域福祉コーディネーターさんの協力も得ながら、かつ、各地域の関係機関と連携しながら、いわゆる小地域での支え合いの体制、そういった仕組みを作っていくかというのが各地区社協のこれからの課題になるかと思うんですが、そんな中で2点ほどちょっとお願いをしたいと思っております。

それはこの重点目標の最後の目標に掲げられております、地域福祉を推進するための体制基盤づくりに関してでございますが、実は地区社協の中で例えば、いろんな関連組織との連携を持ったり、あるいは、協働しながら自主防災組織の協議会とか、あるいは地域内連携協議会、そういったものを作ったりする取組が現在、特に私の地域では進められておるんですが、そんな中で例えば、自主防の協議会を作る際にも福祉の観点というのが必ずしも主催する市の担当の方の念頭に入ってるのかどうかというところを疑問に感ずるところがあります。したがって、この5年間の振り返りの中で、その庁内の検討委員会をされて各部課との連携をされておられるわけでございますが、この連携なり意識合わせと申しますか、それを更に強化していただきまして他の部門でもこの福祉の意識と申しますか、福祉という観点を更に強く持っていただくようなことを強化するようにお願いしたいと思います。

それともう1点は、地域で小地域の支え合いを作ろうとしたときやっぱり一番のキーになるのは、町内会なんですね。町内会が一つの単位としてまとまりのあるちょうど適切な規模になると思うんですが。そんな中で町内会を運営されてる方の福祉に関する意識ってのがどうも薄いような気がしております。したがって、この地域福祉活動を推進しようとしていろんな話を持ちかけようとしましても、なかなか話が前に進まないような実態が実はございます。したがって、これは実は町内会連合会長の長尾委員さんへのお願いですけど、町内

会連合会の中でそういった地域福祉に関する協力を強化していただけるような、そういうお話を是非進めていただきたいというお願いでございます。

以上でございます。

(玉里会長)

ありがとうございました。

他にも委員さんの方々まだまだご意見。長尾さんどうぞ。

(長尾委員)

実は私がいうて、手を挙げたのは全くこのことです。やはり町内会連合会は非常に20年前は40とか、60とか、今はもうほとんど70以上がほとんどの方、8割以上が70歳を超える。最高は85歳という方々相当おります。そういうことでこれからの地域活動で福祉の問題がものすごいこれから出てくると。次の計画のとき、地域活動イコール福祉と町内会活動イコール福祉問題というのを一つお願いしたいということであったので、今日うちの理事も来ちよりますし、このうちでは若い非常に私が相当若いので、そういうテーマをこれから本当に町内会活動、地域活動が福祉と絶対に背を向けて町内地域活動が進まないという思いを持ちちよりますので、ちょっとそれを次の計画のほうで是非、入れてもらいたいということで会長よろしくお願ひします。

(玉里会長)

ありがとうございます。

今日は今期計画の総括をお聞きする協議会でやったんですが、早くもいろいろな課題がやはり委員の方からもご意見頂きまして、見えてきたのかなというふうに思います。今日の報告をお聞きしまして5つくらいポイントがあったかなと思うんですけども。

1つ目は若い世代や成人の方々への福祉教育と人材育成、また、人材活用としてのボランティアセンターの強化という面をこれから考えていかななくてはならないということ。

それから2点目は、今もございましたけど町内会の再生であったり、場というものをどのように作り、また機能を強化していくのか、住民主体の社会づくりの基盤として、やはり話し合いや小地域での会議というのは非常に大切なものですので、これをどういうふうに横展開していくかということが挙げられると思います。

3番目に専門職や法人さんとの連携、その辺りをどうしていくか。

4番目としましては、やはり高知市としましては防災と地域福祉の更なる連携強化をどのようにしていくか。

そして最後、5つ目に生活困窮者の問題。この辺りの課題をどのように次期に取り入れていくのかということが、今日、委員さんからもご意見で出ておりましたので、今後検討していければというふうにも思った次第でございます。

今日は事務局からの報告が非常に長くて、委員の皆さんにお集まりいただきましたが、十分な議論ができなかったかと、また、最後はまたマイクを先にご発言をさせていただいた方にお返しできなくて大変申し訳ないとお詫び申し上げます。私からの提案ではありますけれども、次回は資料をでき次第、委員さんにお送りしまして委員さんの皆さんからご意見お先に頂戴して、少し一覧にでもまとめておけば、時間の短縮と、また実のある議論につながるのではないかと思いますので、事務局にはご負担掛けますけれども、ご検討いただきたいなと思った次第でございます。また、今日、会の始まりに委員の皆さんにアンケートお願いしましたが、やはり2時間ではこれだけのメンバーが集まって2時間では足りないのであれば、初めから2時間半という考え方もできるのではないかと思いますし、また、日中の開催というのも調整が難しいかもしれませんけれども、その辺りも事務局のほうに一度お考えいただきたいと思います。また、委員さんにもその辺りの開催のほうもご提案があるかと思いますので、皆さんにもご協力をよろしくお願いいたします。

それでは拙い進行ではございましたが、第1回の推進協議会をここで終わらせていただきまして、事務局のほうにお返しいたします。

ありがとうございました。

(司会)

委員の皆様、本日は活発な協議をありがとうございました。最後に事務局の方よりいくつかお知らせがあります。今回、協議会資料でお配りしました委員名簿は、昨年度の所属、役職等を記載しております。新年度の異動で、変更のあった方につきましては、事務局への連絡をお願い致します。

又、6月からアンケート調査や意見交換、意見交換会の開催を予定しております。委員の皆様につきましても、ご協力いただく方もいらっしゃると思いますので、ご協力よろしくお願い致します。又、本日、障がい、高齢、子ども子育ての計画を3冊、皆様に配布をさせていただいております。これは、地域福祉計画が他の福祉計画の上位に位置づけられ、取り組むべき共通事項を次期計画に盛り込むべきとされましたので、皆様にご参考として、配布させていただいております。本日、お持ち帰りいただいて今後の協議に役立てていただきたいと思っておりますが、お荷物にもなりますので、お席にそのままおいておいていただければ、後日、郵送もできますので、よろしくお願い致します。

又、本日、当日配布資料で差し替えの①-2を配布いたしておりますが、その差し替え前の事前配布で送っております、①-2の分ですが、机の方においておいていただければと思いますので、ご協力よろしく申し上げます。

次回は、8月に協議会開催を予定しております。委員の皆様には、できるだけ早目に開催日時をお知らせさせていただきますので、ぜひご出席をよろしくお願いいたします。この2回目は協議内容が多いこともあり、先程、会長の方からもありましたが、又、本日皆様に開催時間等のアンケートを配布させて、アンケートをさせていただいております。まだ提出さ

れていない方がおられましたら、ご記入の上、提出の方をお願いいたします。皆様のご意見を元に協議会の開催時間帯、協議時間を検討させていただきたいと思っております。

それでは以上をもちまして、平成30年度第1回高知市地域福祉計画推進協議会を閉会いたします。委員の皆様、ありがとうございました。お疲れ様でした。